

神功皇后と湊と神集島（1/2）

神功皇后の朝鮮への出兵は、367年とされている。

さて、神功皇后船出の地は、松浦地方の湊（唐津市湊町）と伝えている。皇后は、出発前多くの神々を湊の前の島に集めて戦勝祈願をされたとか。その故事によりこの島を「神集島（かしわじま）」と呼んでいる。

古典よる皇后の本土の出航地は明らかではないが、『日本書紀』によれば「和珥浦（わにのうら）」とある。わにの浦については、長崎県対馬県郡鰐の浦があるが、湊湾も神集島湾も古くは「和珥浦」と呼ばれており、湊湾が出航地と伝えるゆえんである。

なお、神集島については、古く地図にも記載があり、そこには、「狛島（こまじま）」とあるが、これは、「狛」は「柏（かしわ）」の書き間違いであろうということは通説となっている。この神集島については、古代のドルメンや石鏡などがみられ、古くから大陸への寄港港として、重要な港であったことが読み取れる。

つまり、古代より日本の大陸の端、博多や神集島、次に壱岐、対馬、朝鮮大陸へと安全な航路となっていた。この好条件が、後に肥前名護屋城の築城ともなる。

神功皇后の時代の後、約360年後、松浦佐用姫と一緒に、神集島も万葉集に詠まれるのである。その数7首である。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



神集島の万葉歌

※写真内の歌
「足姫（たらしひめ）御船泊（みふねは）
てけむ松浦（まつら）の海
妹が待つべき月は経（へ）につつ」

唐津市神集島（住吉神社裏海岸）

（唐津市ポータルサイトより）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『七山村史』
- ◆『松浦と万葉』清水静男著

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

神功皇后と湊と神集島（2/2）

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など

～1/2からつづく～

■肥前国松浦郡狛嶋の亭に舶泊して夜、海浪を遥望け、各旅の心を働みてよめる歌七首

- ・ 帰り来て見むと思ひしわが屋外の 秋萩薄散りにけむかも （秦田満）
 都に帰って来て 見られると思っていた わが家の庭の 秋萩やスキは もう
 散りはててしまったかも 新羅へ行き着かないうちに 年月ばかり過ぎて
- ・ 天地の神を祈ひつつ吾待たむ 早来ませ君待たば苦しも （娘子）
 天地の神々に 無事をお祈りしながら わたしは待ちます あなたが早く無事で
 お帰りになるように ただお待ちするのでは つらいだけなので
 神々に無事をお祈りして わたしは待っています
- ・ 君を思い吾が恋ひまきはあらたまの 立つ月毎に避くる日もあらし
 あなたを想い ひたむきに恋い焦がれる気持ちは 月日がたつごとに
 いよいよ紛れることはありません
- ・ 秋の夜を長みにかあらむ何そこば 眠の寝らえぬもひとり寝ればか
 秋の夜の長さには堪えかねてか なぜもこんなに 目が醒めるのか ひとり寝が
 つづくからか 妻恋しい 秋の夜長はつづく
- ・ 足姫御船泊てけむ松浦の海 妹が待つべき月は経につつ
 その昔 神功皇后の御船が泊ったという 松浦（まつら）の海で
 船泊りは続いて妻に帰ると告げた月は いたづらに過ぎてゆく
 妻の待つ想いをよそに 松浦（まつら）で船泊りは続く
- ・ 旅なれば思ひ絶えてもありつれど 家にある妹し思ひがなしも
 旅なればと 思いあきらめてはきたけれど クニにある妻のことが
 悲しく 心ふさぐ 旅の身の悲しさよ
- ・ あしひきの山飛び越ゆる雁がねは 都に行かば妹に逢ひて来ね
 雁がねは 飛んでゆく 山を越えてもし都に行くのなら わが妻に出会って 妻の便りを
 運んで来ておくれ 山を越えてゆく雁がねよ 妻に伝えておくれ わたしは まめにしていると

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『七山村史』
- ◆『松浦と万葉』清水静男著

◎エピソード・伝承・うんちく など

唐津市湊から定期船で8分。島の北側は比較的平坦で、南側が高くなっていて、アメーバのような形をしている。
 万葉学者犬養孝先生揮毫の万葉歌碑が7基。定期船が着く漁協近くに1基、そこから西の海岸部に3基、南の海水浴場から山間部に3基の歌碑がある。

遣新羅使人一行は、天平8年(736)4月に難波の津を出発し、秋に狛島に停泊した。望郷の思いや恋人への思いがせつなく綴られている。
 これらの歌碑を一巡すると約7キロ、歩行時間だけで2時間かかる。見学時間や休憩時間を入れると3時間くらい。
 万葉集・巻第十五

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
 お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html